



QSTの5年間 私たちの5年間



2016
2021

QSTは多彩な職員が集う人間集団です。
全国各地の拠点の多様な職場で、いろいろな職種の職員が働いています。
1000人を超える職員の一人ひとりが積み重ねた歩みが、
QST発足から5年間の躍進の原動力となりました。
さまざまな立場の職員が、QSTと自分の5年を振り返ります。

※プロフィールは2021年4月1日現在。その他の情報の組織名称は当時

QSTにも通じる六ヶ所研のフロンティアスピリット

近藤 恵太郎 KONDO Keitaro

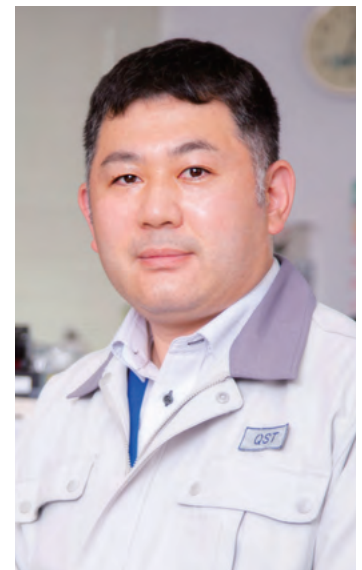
〔六ヶ所地区〕 核融合エネルギー部門
六ヶ所核融合研究所 核融合炉材料研究開発部
IFMIF加速器施設開発グループ



私的一大イベント

RFQ加速器を据え付け、
ビーム試験開始や世界最大
電流の加速にこぎつけるこ
とができました。

六ヶ所研はQSTの中では新しい研
究開発拠点です。ここで取り組んで
いるのも、前例のないような、常識外
れの強度パワーをもった加速器と、
いろいろな意味でフロンティアで
す。これは、異なる研究分野を連携さ
せて新しい分野を切り拓いている
QSTにも通じるスピリットだと思います。



私 の 5 年 間

2020年7月

グループリーダーを拝命。人数が多く、
不安やプレッシャーも。責任に応えられているか自問自答

2021年1月

コロナ禍の中で第2子となる長女が誕生

2016

2017

2018

2019

2020

2021

4 APR 放射線医学総合研究所(放医研)と日本原子力研究開発機構(JAEA)の量子ビーム部門、核融合部門が再編統合されQSTが発足

9 SEP QSTに入構し、研究成果を知財という形にするスタッフに [鶴澤聡子]

放射性核種を使う側から作る側に、加速器の整備も担う

峯岸 克行 MINEGISHI Katsuyuki

[千葉地区] 量子生命・医学部門
量子医学研究所
先進核医学基盤研究部放射性核種製造グループ



私の一大イベント

放医研の業務を請け負う会社の社員という立場から2017年4月にQST職員になったことです。

専門学校時代のインターンからアルバイトを経て、ずっと放医研(現量医研)で働いています。PET実験の補助にはじまり、今は放射性核種の製造に取り組んでいます。放射性核種を使う側から作る側へと、仕事はつながっています。小さな装置からサイクロトロンのような大きな設備まで関わるようになりました。



私の5年間

2016 2017 2018 2019 2020 2021

2019年9月 結婚。仕事の面でも気持ちが一層引き締まった

2020年3月 ^{211}At -MABG合成装置を福島県立医大へ提供。同大学での α 線治療実現に向けて貢献

研究開発を支える意義ある仕事、自身の成長も感じる

今井 彩乃 IMAI Ayano

[高崎地区] 量子ビーム科学部門
高崎量子応用研究所 管理部経理・契約課



私の一大イベント

高崎勤務になって長時間の電車通勤から解放され、自分の時間がより多く持てるようになりました。

最新の科学技術の研究開発を支える、意義のある仕事です。微力ながら役に立っている実感があります。QSTになって5年が経ち、経理分野では各部門や拠点の様子の良いところを採り入れて、一つになってきたと感じます。私自身は全体像を把握して仕事を進められるようになり、成長できたかなと思っています。



私の5年間

2016 2017 2018 2019 2020 2021

2016年4月 旧放医研で1年半働いた後、改めてQSTに採用されて放医研管理部経理・契約課に配属

2020年7月 高崎研へ異動。初めて自分の自動車を購入した

4 インターン時代から放医研で働き、QST職員に採用 [峯岸克行]
APR

研究経験を生かして研究企画業務へ、新しい波を経験

川野 光子 KAWANO Mitsuko

[千葉地区] 量子生命・医学部門
研究企画部量子生命運営推進グループ



私の一大イベント

2019年に量子生命科学領域の発足とともに、研究企画業務が自分の主務となったことです。

学位取得後は研究職でしたが、今は量子生命科学の発展に向けた研究戦略を練り、その実現を目指す毎日です。研究経験があつてこそできる仕事であり、その意義を感じています。学際領域である量子生命は二つの法人の統合で誕生したQSTの小型版です。波が起きて大きくなっていく過程に刺激を受けています。



私の5年間

2016年4月

放医研組織再生治療研究チームに。専門は分子細胞生物学、皮膚科学、免疫学

2016年10月

内閣官房副長官補室に行政実務研修員として半年間派遣された

2016 2017 2018 2019 2020 2021

統合時の業務調整を担当、QSTのさらなる発展を感じる

飯田 達也 IIDA Tatsuya

[東海地区] 量子ビーム科学部門
高崎量子応用研究所 管理部



私の一大イベント

基幹高度被ばく医療支援センターの指定を受け、事務局長として設立や組織充実に取り組みました。

QST発足時に両法人間の業務調整を担当しました。土壌が違うので大変でしたが、旧放医研とJAEAの2部門には三者三様の特徴があり、それが面白いところ、大切なところだと思います。5年が過ぎ、結びつきが強くなってきました。QSTはこれからの伸び代がある法人です。一緒になって良かったと思います。



私の5年間

2016年4月

那珂研庶務課長としてQST発足を迎える

2019年4月

基幹高度被ばく医療支援センター事務局長に。とても大きなミッションを任せられた

2016 2017 2018 2019 2020 2021

1 イーター機構に outward。国際プロジェクトの職場は多国籍 [上野健一]
JAN

横のつながり強化で、今までになかった研究の展開を

佐々木 拓生 SASAKI Takuo

[播磨地区] 量子ビーム科学部門
関西光科学研究所 放射光科学研究センター
コヒーレントX線利用研究グループ



私の一大イベント

ラグビーW杯の日本-アイルランド戦を生観戦。勝利の瞬間の感動は、今でも忘れられません。

大型放射光施設のSpring-8で半導体結晶の構造解析に取り組んでいます。世界でここでしかできない研究を自分を中心となることができる環境は研究者冥利に尽きます。今の環境に満足することなく、これからの5年間は他拠点・他機関との横のつながりを一層強くし、新しい研究を進めていきたいと思っています。



私の5年間

2016	2017	2018	2019	2020	2021
				2020年4月 兵庫県立大学客員准教授を兼務。 「共学合い長ず」。活気あふれる学生と楽しく勉強する毎日	2021年6月 第2子誕生。 責任も2倍に

統合の荒波を乗り越え、職員の生活を支える役割担う

北村 朋子 KITAMURA Tomoko

[那珂地区] 核融合エネルギー部門
那珂核融合研究所 管理部庶務課



私の一大イベント

結婚し、出産、育休を経て復職したことです。就職時から、ずっと働き続けたいと考えていました。

QST発足からの2年間は、人事制度の変更など数年に一度しかないような事柄が多く、慌ただしい毎日でした。事務職は研究開発を支える立場ですが、私は職員の皆さんが生活する上で大切な給与や社会保険に携わり、研究というよりも職員一人ひとりの暮らしを支える役割を担わせてもらっていると感じています。



私の5年間

2016	2017	2018	2019	2020	2021
				2016年4月 那珂研でQST発足を迎える。統合前後で仕事のやり方が変わる激動の時期を他拠点の担当者と協力して何とか乗り切った	2020年5月 復職

2019

量子生命科学領域発足とともに
研究企画が主務に [川野光子]

4
APR

基幹高度被ばく医療支援センター事務局長に就任 [飯田達也]

RFQ加速器で世界最大電流の
加速に成功 [近藤恵太郎]

8
AUG

ラグビーW杯
日本-アイルランド戦
生観戦 [佐々木拓生]

9
SEP

国際プロジェクトで働く、多国籍でも設計哲学は一つ

上野 健一 UENO Kenichi

[那珂地区] 核融合エネルギー部門
那珂核融合研究所(イーター機構プラント
エンジニアリング部門 ホットセルセクション出向)



私の一大イベント

イーター機構に採用された
ことです。現地支援チーム
時代に、現在の上司から
誘っていただきました。

イーターの現地で働くQST職員を
支援する立場でしたが、いまは支援
される側になりました。イーターの
炉内機器や遠隔保守機器をサポート
するホットセルの設計をしています。
世界的なプロジェクトの職場は
多国籍で、仲間たちの文化的背景も
多様ですが、同じ専門分野の者同士
なので設計哲学は共有しています。



私の5年間

2016年4月

JAEA時代から引き続き、
イーターが建設されている南仏で支援業務に従事

2018年1月

イーター機構に出向

2016

2017

2018

2019

2020

2021

武器は特許や知財、QSTの研究成果を社会に橋渡し

鵜澤 聡子 UZAWA Satoko

[千葉地区] 本部
イノベーションセンター知的財産活用課



私の一大イベント

QSTに採用され、最先端の
研究成果を知財という形に
する仕事に携われるよう
なったことです。

ももとは研究開発職でしたが、
特許や知財という武器を使って成果
を社会に橋渡しすることに魅力を感じ、
特許事務所を経て入構しました。
当初は研究推進課の一つの担当だった
知的財産活用が独立した部署になり、
QST内でも知財に対する意識の
変化を感じます。活発な議論ができ
る職場で、毎日が刺激的です。



私の5年間

2016年9月

任期付きの知財スタッフとして入構
(2019年7月、定年制職員に採用)

2020年10月

知的財産活用課が新設

2016

2017

2018

2019

2020

2021

2020

2021

4 APR
5 MAY
コロナ禍で
国際共同実験の
実施が困難に
〔西内満美子〕

結婚、出産と
育休を経て復職
〔北村朋子〕

7 JUL
高崎に異動し、初めての
マイカー通勤に 〔今井彩乃〕

3 MAR
量子メスプロジェクトで
完成までの道筋つける 〔山田滋〕

いつか量子ビームを思い通りに操って社会に還元を

西内 満美子 NISHIUCHI Mamiko

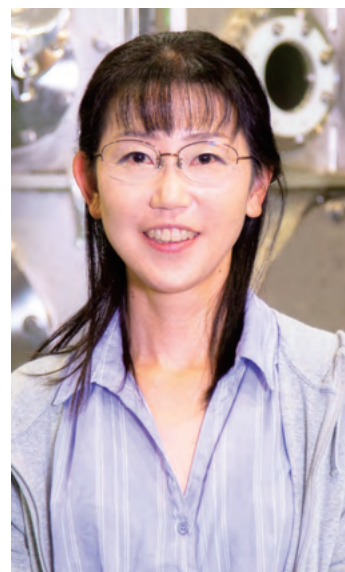
〔木津地区〕 量子ビーム科学部門
関西光科学研究所 光量子科学研究部
高強度レーザー科学研究グループ



私の一大イベント

これまで、これからも、量子ビームを思い通りに操るという目標に向けて一歩一歩進むだけです。

関西研にあるJ-KARENを使えば、自分で量子ビームを操り、ブラックボックスをこじ開けて一つひとつ理解していくような、世界でも他ではなかなかできない研究ができます。過程を理解して制御につなげるのが面白い。極限的な状態でプラズマを制御できるようになれば、量子ビーム社会に還元できます。



私の5年間

2019年4月

QST国際リサーチイニシアティブが開始

2020年4月

現在に至るまでコロナ禍で国際共同実験の実施が困難を極める

2016

2017

2018

2019

2020

2021

重粒子線治療で膵臓がんの克服を目指す

山田 滋 YAMADA Shigeru

〔千葉地区〕 量子生命・医学部門 QST病院



私の一大イベント

量子メスプロジェクトで、2021年9月の臨床試験開始から完成までの道筋をつけることができました。

消化器がんの重粒子線治療に20年以上従事してきました。日本の重粒子線がん治療を切り拓いてきたQSTはさらに普及に努めるとともに、世界でもトップリーダーの立場を維持していかなければなりません。ライフワークは、膵臓がんに対する重粒子線治療の治療成績を向上させ、この難治がんを克服することです。



私の5年間

2017年4月

放医研重粒子線治療研究部
部長に就任

2020年4月

QST病院副院長。研究と臨床に
またがる立場から、経営にも携わるように

2016

2017

2018

2019

2020

2021